

連載 (供覧) いはひまつりのみち

宗教は人を殺し、祭祀は人を生かす
世界平和のための祭祀を復興させる

第七回 英霊祭祀

南出喜久治（令和6年12月1日記す）

ちちははと とほつおやから すみめおや やほよろづへの くにからのみち
（父母と遠つ祖先から皇御祖八百万神への国幹の道）

【英霊祭祀】

英霊とは、前に述べましたとおり、自らの共同体、社会、国家に襲ひかかった危機に対して命がけで多くの人々と共同社会を守り、あるいは、これと同様に、共同社会の発展に多大な貢献された偉人、聖人などの英霊に対して、感謝を表すためのものです。

英霊祭祀を実践することが人間の自然な発露としての喜びを感じることができるのです。

英霊祭祀は、どこでも行ふことができます。英霊のゆかりの場所や慰霊碑、顕彰碑、銅像等の前で祭祀を行ふことになります。

英霊祭祀とは、本来は、慰霊や鎮魂を目的とするものではありません。顕彰を行つて、祭祀の復興と社会、国家の繁栄を祈るためのものです。大いなる魂を顕彰することに意義があり、決して鎮魂、慰霊を行ふものではないのです。さらに、英霊が行はれた偉業を引き継ぐために、その偉大なる力をお貸しくださいと祈るのです。

特に、戦没者を祭る靖国神社などでは、鎮魂・慰霊などは英霊の意志を踏みにじるものです。戦没したことの英霊の無念さを晴らすことができるのは、次の戦争において必ず勝利することしかありません。顕彰によつてその力を授けていただき、それを受け継ぐことによつて初めて鎮魂・慰霊となるのです。